

# 北信教育事務所だより 第10号

令和3年2月22日(月)

～教師・学校・地域がつながるために～

## 「研究主任が夢を語る」私自身がミドルリーダーとしての自覚をもち、研究の中心となって進めていきたい。

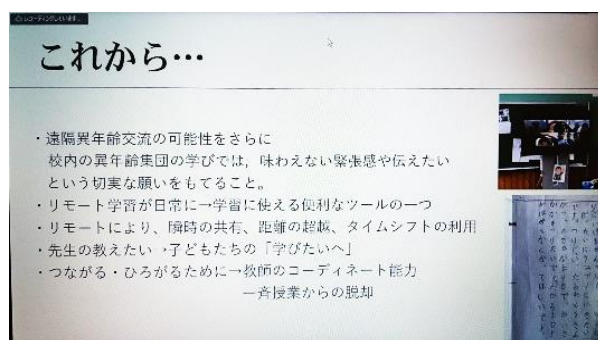
(研修に参加された研究主任の感想記入用紙より)

1人1台端末を利活用し、  
資質・能力の育成を目指す学校

### 栄小学校

#### リモートを活用してコミュニケーション能力を高める

研究主任 祖父江 智 先生

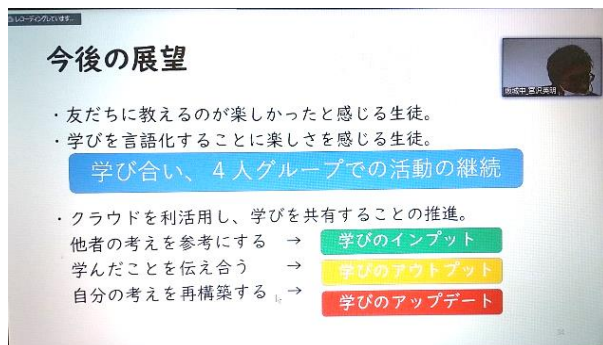
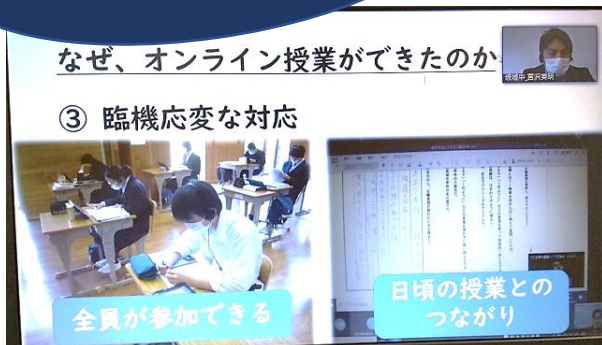


栄小学校では、コロナ禍におけるリモート活用例や気軽につないで学びに生かす取組例について発表がありました。コロナ禍においても人と人とのつながりを大事にし、リモートでの交流活動を続けています。活動を通して、理由を付け加えて発表したり、言葉を選び話し方を工夫したりする子どもの姿が見られ、コミュニケーション能力の向上が進んでいます。

### 坂城中学校

#### 1人1台端末を活用して学び合い、考えを再構築する

情報主任 柳沢 健 先生、研究主任 宮沢 英明 先生



坂城中学校からは、オンライン授業のシステム構築とクラウドを利活用した授業の実践について発表がありました。オンラインでの授業づくりを協力し合って楽しむ教師集団、そして、資質・能力の育成を目指す授業づくりが基盤になっています。また、探究的な学びのためのツールとして1人1台端末を用いることにより、生徒が自分の考えを伝え合い、学びの共有が進んでいます。

とにかく、まず、やってみよう

## オンライン研究主任研修会 1月18日(月)、2月4日(木)

〔中野・下高井、飯水地区対象〕

〔上高井、長野上水内、更埴地区対象〕

# グループ討議



Zoom のブレイクアウト機能で、「資質・能力ベースの授業改善」「1人1台端末の利用」「自律的に学ぶ力」「研究体制づくり」の4つのテーマでグループ討議を行いました。

共同追究で、子どもたちが考える視点として「共通点」と「相違点」に着目するようにしたら、学びが深まるようになりました。

11月から計5、6回のタブレット活用の職員研修を継続しています。子どもが使う前に、我々教師が使えることも大事ななと思っています。

教師の指導力向上のための生徒アンケートを実施しています。そのアンケート結果を基に、一人一人の教師が授業改善を図るようにしています。

子どもたち自身で授業を進めていけるように、学習リーダーを設けています。子どもたち自身の「問い」を大事にした授業づくりをしています。

## 【参会者の感想から】

- 子どもと教師両方にメリットがあることが、授業改善や授業研究に必要な条件だと思っています。自分なりの視点で分析して、提案してみたいと思います。
- これまで行われてきた提出ノートと生活ノートをやめ、子どもが自律的に学ぶ本当の意味での「自主学习ノート」を導入した事例を知り、思い切ってやってみたいと思います。
- ICTの推進によって1人1台端末が実現した場合の最大のよさは思考の可視化だと感じました。このよさを、今後の授業に生かしていきたいです。

# 次年度に向けて

教育事務所からは、「この時期の研究主任の役割」と題して、カリキュラムを振り返る視点、目指す子どもの姿や学校として育成する資質・能力の決め出しと共有、資質・能力を育むカリキュラム・マネジメントの進め方についてお話させていただきました。

### 2 カリキュラムを振り返る視点

何を視点に、本年度の取組を振り返ればよいのでしょうか。

- 学校教育目標
- 目指す子どもの姿
- 学校として育成を目指す資質・能力

⇒ グランドデザインに即して、子どもの具体的な姿から振り返ってみてはいかがでしょうか。

### 3 目指す子どもの姿、学校として育成する資質・能力の決め出しと共有

次年度、目指す子どもの姿（学校として育成する資質・能力）を、先生方と共有しましょう。

- 目指す子どもの姿 ⇒ どんな力をつけた子どもの姿
- 資質・能力の三つの柱で整理してみる
- 目の前の子どもの姿から、目指す姿を洗い出してみる

⇒ 全職員で共有  
⇒ 校長先生の学校運営方針やビジョンを理解したうえで

### 4 学校として育成する資質・能力を育むカリキュラム・マネジメント

来年度の重点を決め出す

- 一度に全部は無理なので、重点を決め出す
- 重点課題、重点目標に照らして、それぞれのところ（教科領域等、係分掌）で何をやるのか、何ができるのか

など

### 5 まとめ

校内で、先生方を巻き込みながら研究（＝授業改善）をリードするのが、研究主任

- 「研究」は、特別なものではないという意識 ⇒ 日常化
- 子どもも教師も、「自律的に学ぶ」
- 学校づくりは、全職員で。その中心は、ミドルリーダー  
まずは、研究主任が「夢を語る」

⇒ 目指す子どもの姿にアプローチできるよう、まずは一歩踏み出しましょう。

研修配付資料より抜粋

**何を目標として教育活動の質の向上を図るのかを明確にし、カリキュラム・マネジメントを効果的に進めていけるような振り返りと次年度の計画を立案していきましょう。**

# 前に進み続ける初任 1年目 2年目の先生方 ～初任研プロセス研修～

研修のねらい

## 1年次

1/29

初任 1年目の自己の歩みを見返し、1年間の研修をまとめ、2年次の自己課題を明らかにする。

### A先生(小学校勤務)

先生方と実践を発表し合ったり、悩みを共有し合ったりする中で、自分自身の課題が見えてきた。5月のポップシートには、「子どもの問いや願いを大事にした授業を目指したい」と書いている。今、それができている訳ではないが、少しずつ子どもの反応を予想しながら授業づくりをすることができていると思う。これからは、授業を進める中で、子どもの反応に対して柔軟に対応できるようにしていきたい。



### B先生(特別支援学校勤務)

子どもたちがことばや音のイメージをもつことができる授業を目指してきた。分散会で先生方の実践を聞いて、活動を決め出す際の支援やイメージがわからない子どもが見通しをもつことができる支援など、校種や学年が違っても参考になった。子どもの様子から授業を振り返り、授業を工夫しながら、日々の授業を丁寧に行っていきたい。

研修のねらい

## 2年次

1/26

2年次 1年間の自己の実践を振り返り、これまでの成果と課題を明らかにし、教師としてこれからどんな力をつけていくのか、見通しをもつ。



### C先生(中学校勤務)

授業のユニバーサルデザイン化を課題にしてきた。研修で知った小学校の支援を参考に、国語の授業で心情を可視化したり、ノートにまとめやすい授業を心がけたりした。より焦点化、効果的な授業づくりに励みたい。まずは、来年度は教科書が変わるので、年度初めからの教材研究を大切にしていきたい。

### D先生(特別支援学校勤務)

児童理解を踏まえた活動づくりと日常生活の指導を課題としてきた。粗大運動を重視したり、スヌーズレン(感覚刺激空間を作り、余暇やリラクゼーションの提供)を行ったりした。安全を確保した上で、自主的な動きを引き出したり、待ったりすることが大切だとわかった。願いを大切に、思いに寄り添いながら子どもにかかわったり、専門性を高めていったりしたい。

指導教員の先生方、自校の先輩の先生方のお支えにより、子どもと共に学び、成長している先生方です。

# シリーズ 信州型UD推進校の取組④ 須坂市立東中学校

東中学校では、UDリーダーが中心となり、LD等通級指導教室担当教員、研究主任、特別支援教育コーディネーターと連携しながら、昨年度から継続してUD推進の取組を進めています。全職員が、信州型UDの視点をもった授業づくりを意識しています。

## 今年度の取組（信州型UD推進校2年次）

### 【全校研究テーマ】

「生徒一人一人の教育的ニーズに応じ、協同的な学びの授業づくりを通して、思考力・判断力・表現力を育成する」

### 【重点とする信州型UDの窓口と取組】

#### 合理的配慮

- ①授業参観や各種アセスメントから、生徒の困り感を理解し、それぞれの教育的ニーズを把握する。それを基に、授業改善や全体への支援、個に応じた合理的配慮に取り組み、教科担任者会で情報共有していく。

#### 安心して参加できる授業の工夫

- ②多様性を認め合う学級集団づくりを基盤とし、友と関わり合いながら学び、自分の考えをアウトプットする協働的（協同的）な学びの授業づくりを、ICT端末を活用して行っていく。

アセスメントの分析結果から、困り感のある生徒のために、授業改善や合理的配慮を行い、教科担任者会で支援の方向を共有する。

各種アセスメントやLD等通級指導教室担当教員の授業参観から、書くことに困難さがあるために授業に取り組みにくい生徒が複数いることが分かってきました。授業の流れを視覚化して見通しをもてるようにしたり、ICTを活用して書くことの負担を減らしたりする等の授業改善や支援を右の例のように検討し、実施しています。また、生徒の状況によって合理的配慮を行います。実践の成果と課題を教科担任者会で共有し、より効果的な支援につなげています。

- ＜書くことに困り感のある生徒に対する各教科の支援例＞
- 【国語】デジタル教科書にふりがなを付け、音読時に提示する。
  - 【社会】何をするのか分かるように活動の流れをスクリーンに提示したり、追究の手がかりになるものを用意したりする。
  - 【数学】書く時間と説明の時間を分ける。
  - 【理科】板書の内容や量を精選する。
  - 【英語】MTとSTで授業前に、その時間の学習内容、個別支援が必要な生徒に対する支援内容を確認する。
  - 【技術・家庭】ヘッドセットマイクを使い文字入力を音声で行う。

すべての教科において、グループ学習等でICT端末を積極的に活用し、配慮が必要な生徒も参加しやすい協働的な学習活動を設定する。

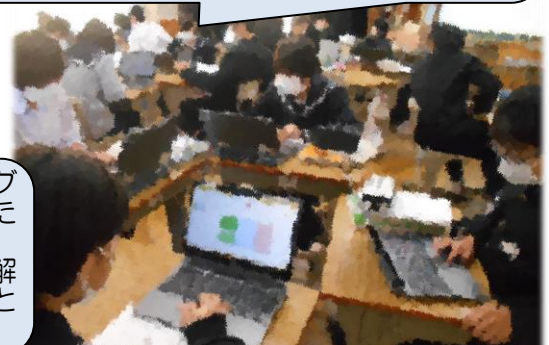


学習問題について、自分で調べて分かったことをGoogleスライドの自分のシートに入力した後、グループ全員のシートを見合いながら話し合い、同時編集してグループの考えをまとめています。自分の考えを発言することが難しい生徒も、一人ひとりが端末に入力することで自分の考えをアウトプットでき、グループの活動に主体的に参加できました。

学習問題についての予想を出し合い、それを確認するために、グループでインターネットや資料集を使って調べました。検索した内容を見ながら話し合い、Googleスライドにまとめています。一人で調べ、まとめることに難しさがある生徒が、グループで解決する課題をもち、調べたことを共有してまとめることで、友と関わり合いながら主体的に授業に取り組んでいました。



東中学校区の小中学校の合同研修会で、UDリーダーがこれまでの信州型UDの取組を生かした授業を公開し、生徒の姿から学び合いました。



# シリーズ 信州型UD推進校の取組⑤ 信濃町立信濃小中学校

信濃小中学校では、「読み」のつまずきへの早期発見、早期支援に努め、安心して参加できる授業づくりに取り組んでいます。

## 本年度の取組（信州型UD推進校2年次）

### 【全校研究テーマ】

新たな社会を生み出す力の育成を目指して  
～「ひと・もの・こと」との関わりの中で、粘り強く追究する信濃町の子ども  
9年間のカリキュラム開発と実践を手がかりにして～

### 【学校として取り組む信州型UDの窓口】

- ① 安心して参加できる授業の工夫
- ② 合理的配慮

### 【着眼点】

- 学習状況の科学的なアセスメント
- 活動に取り組みやすい配慮



## 昨年度の取組と課題

- ① 信州型UDに基づく授業づくり
- ② MIMの活用

・UD月間、UD通信等で校内の授業のUD化を進めた。  
・通級指導教室と連携してアセスメントによる実態把握とMIMの実践に取り組んだ。  
・年度が替わっても、1年生からの「読み」の指導を継続していきたい。

MIM: 多層指導モデル  
Multilayer Instruction Model



昨年度取り組んだ「読み」の指導を今年度も継続して行えるようにしました。

昨年度、1年生でMIMの「読み」のアセスメントと指導（以下「MIM」）を導入しました。児童の実態を正確に把握でき、「読み」でつまずきの見られた子どもたちに適切な支援を行うことができたこと、先生方は子どもたちの「読み」が改善されていく様子を実感されました。

今年度の1年生でもMIMを導入し、週に1時間、UDリーダーの赤池先生が1年生の国語の授業に出向いて、担任の先生とティーム・ティーチング（TT）で授業をしています。担任の先生は、赤池先生との授業を通してMIMについて理解を深め、翌週のTTの授業まで日々の活動に「読み」の指導を取り入れています。2年生では今年もアセスメントと個別の指導を継続し、「読み」に困難さが見られる児童への支援を続けています。

このように、昨年度の1年生で取り組んだ成果を今年度の1年生へ引き継ぐことで継続的な取組を図っています。



👉 1年生担任とUDリーダーで進める週1時間の国語の授業

児童の実態に応じた指導のために、教材を自作しました。



👉 トランプの神経衰弱のルールで絵カードと文字カードを合わせます。文字は読みが苦手な子が多い拗音と拗長音を主に扱いました。

1学年では、MIMのパッケージ教材そのものに加えて、アセスメントから子どもたちの実態に応じた活動を展開することも大切にしています。

担任の先生は、特殊音節の読みが苦手な児童が、文字を読むことを目指して、楽しみながら「読み」に取り組めるカードゲームを自作しました。カードゲームでは、文字を読むルールを設けて読みの機会を確保し、意欲的に取り組めるように得点制にしました。

友だちや先生からのアドバイス、ヒントカードを手がかりに、高得点を目指す姿が見られました。ゲームを通して楽しみながら正しい文字の読み方を身に付けていく1年生でした。

学級や児童の実態に応じた活動の展開をMIMでも大切にされている信濃小中学校の取組に学びたいです。

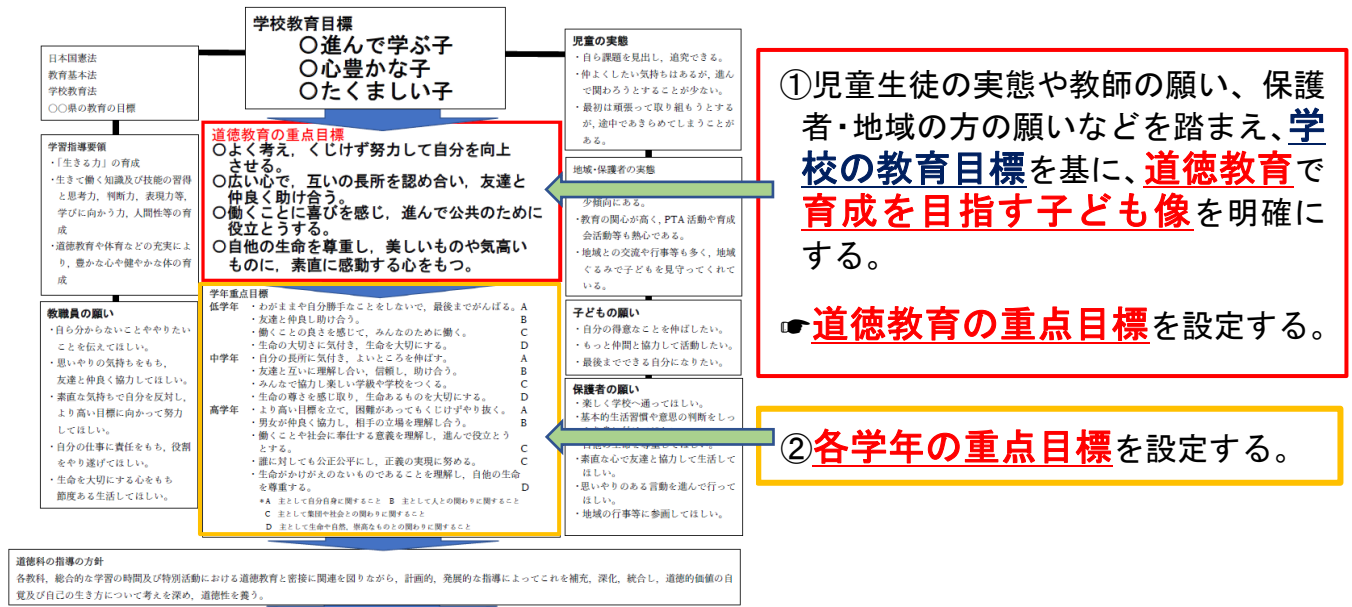
# 豊かな心を育む道徳教育の充実を目指して

## ～生きて働く道徳教育の全体計画の見直しについて～

子どもの豊かな心を育むために、道徳教育の基本的な方針や道徳教育の目標を達成するための方策を総合的に示したものが“道徳教育の全体計画”です。

本年度の取組について、教職員全体で子どもの姿から振り返り、道徳性を育むために道徳科を要とした道徳教育の一層の充実を目指し、次年度に向けた道徳教育の全体計画を見直してみましょう。

### 自校の道徳科を道徳教育の要とするために 道徳教育の全体計画の見直し（例）



道徳教育の全体計画は、各校において、道徳教育推進教師が中心となって、全教師の参加と協力によって創意と英知を結集して作成されるものです。道徳教育の全体計画の見直しにおいて育成を目指す子ども像について、教職員が共通理解を図ることが、道徳教育の重点目標を軸として、各教科・領域等の教育活動の特色を活かした道徳教育の実践につながります。

## 来年度に向けて、自校の道徳教育・道徳科の授業を見直すポイント(例)

### □道徳教育の全体計画の見直し

- ※道徳教育の**重点目標**、**重点内容項目**が決め出されていますか。
- ※**各教科等と内容項目のつながり**が明確になっていますか。
- ※特色ある教育活動や豊かな体験活動との**関連**がありますか。

### □道徳科年間指導計画の見直し

- ※重点的に指導しようとする**内容項目の指導時間数**が確保されていますか。

### □道徳科の量的確保（週1時間）を確認する

### □道徳科の評価と評価方法の共通理解を図る